

「子どもに起業を体験させるジュニアベンチャープログラムを始めて3年目。どんな内容をですか。」

「まず子どもたちで話し合っ、事業の内容を決め、定款や登記簿本を作って、個人印所で登記する。株券も発行する。子どもたちは参加費1500円を出し、大学生ふんするベンチャーキャピタル（VC）にも事業計画を説明して出資を受ける。それらの資金で模擬店を運営し、利益を出資の割合に応じて分配する。会社設立から清算まで、週末を3回かけます」

ベンチャー投資NTVP社長

インタビュ

「一人あたり3000円の配当を受けたチームもあれば、600円しか戻らなかった赤子のチームもあります」

「でも子どもたちは夢中で取り組みます。材料を安く仕入れようと、値段比較をして

村口 和孝さん



起業は夢の実現 魅力をお子供たちに

「サラリーマンは会社の作り方は知らないし、大学でも株の発行の仕方なんて教えてくれない。だから『会社始めたら怖いな』という人ばかりになる。政府などが『投資の機会を教えなさい』

「米国のVCにあっては、野村証券系のジャフコに入社しました。実際は実績のある中小企業を上場させるだけで、ゼロから起業家を育てる本業の姿ではない。そこで2年、札幌で介護ビジネスをス

「見極め、投資することで新しい企業も事業領域を育てていく。未来は自分で拓くという」

「村口さんも元はサラリーマンでした。」

「米国のVCにあっては、野村証券系のジャフコに入社しました。実際は実績のある中小企業を上場させるだけで、ゼロから起業家を育てる本業の姿ではない。そこで2年、札幌で介護ビジネスをス

「スタートさせたトヨタの元セーラムンに、会社の反対を押し切って1億円を投資しました。売り上げが1千万円なのに赤字は5千万円という状況でしたが、07年にジャパングフリービズとして株式公開にこぎつけた。ほかにいくつかの企業の株公開に成功したら、会社からも認められるようになるになりました」

「世界を相手にするには独立しない」と

「でも、VCは投資家がつかないと儲けられません。」

「一からの出踏でしたが、オーナー企業の経営者が仲間になってくれ、思い切った投資が可能になりました。これまでに四つの投資組合を設立し、投資総額は10億円。投資先には、設立間もなくても、技術の強みを持つ15の企業を厳選し、各社に数億円ずつ、投資をしています」

徳島県出身。84年慶大卒後、日本合同ファイナンス（現ジャフコ）に入社。98年7月日本テクノロジーベンチャーパートナーズ（NTVP）を設立。99年から東京や故郷で子ども向けプログラム。42歳。写真・近藤悦明

「設立1年半の米ネット企業、ネットスケープが95年8月、8、9億円もの赤字を抱えながら上場した。これには驚かされた。米国の投資家はそこまで思い切った投資できるのかと。従来型の多くのVCは、企業から集めた金で、しかもリスクを嫌うサラリーマンが投資を決めている。これでは思い切った投資はでき

「各社は事業計画の変更を余儀なくされている。うちも懸命に助言しているが、投資である以上、何社かは行き詰まるかもしれない。しかし、何社かは必ず成長する。それが投資であり、資本主義なんです」

（伊藤裕章）